

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/12/02

## 米雇用統計とFOMCが焦点

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>		<b>年初来高値の更新も視野</b> 予想レンジ: 99.500 ~ 104.000 円	2 - 3
<a href="#">カナダ/円</a>		<b>株・資源価格の動向に注目</b> 予想レンジ: 94.500 ~ 99.000円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



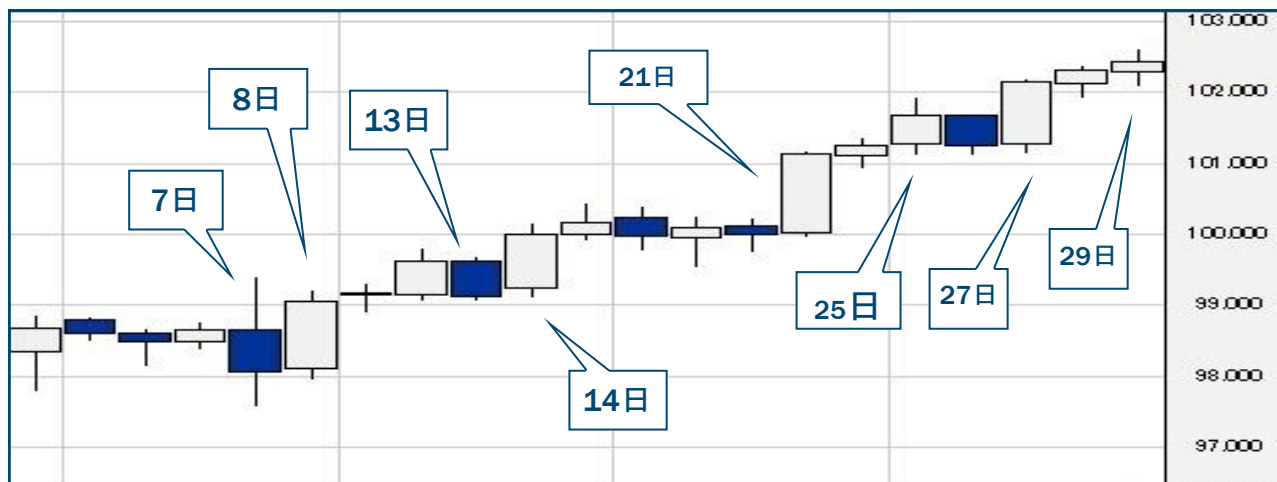
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD / JPY

## ドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	98.359円	102.608円	97.611円	102.451円



7日	米第3四半期国内総生産(GDP)・速報値が前期比年率+2.8%と市場予想(+2.0%)を大幅に上回ったことを受けてドル/円は急騰。ストップを絡めながら上昇し、99.408円まで上昇した。しかし、NYダウ平均が失速するとドル/円はストップを絡めて反落した。
8日	米10月雇用統計は失業率が事前予想通り7.3%であったが、非農業部門雇用者数(NFP)が20.4万人増と予想(12.0万人増)を大幅に上回った事を受け、ドル/円は急騰した。前月分のNFPが上方修正された(14.8万人増→16.3万人増)事も、上昇を後押しした。
13日	NY市場終盤に米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン副議長の14日に行われる公聴会での証言原稿の草稿が公開され、「米経済と雇用は潜在力を大きく下回っている」「失業率は高過ぎ、インフレ率は2%の目標下回る」「金融刺激策縮小の前に経済改善必要」との内容だった。イエレン氏の見方が先行きに慎重であることを確認すると、ドル/円は99.094円まで失速した。
14日	麻生財務相が「為替介入という政策手段を有していることは大事」「一方的な円安や急激な円高はしっかりシグナルを送り止める」などと発言したことをきっかけに円安が進行。さらにその後も米長期金利の上昇等を受け、ドル/円は100円を突破した。
21日	日経平均の上昇を受けて円安が進行。さらに、米新規失業保険申請件数が32.3万件と市場予想(33.5万件)よりも良好な結果だったことを受けて一段と値を伸ばした。
25日	ゴトー(5・10)日の仲値公示に向けたドル買い・円売りに寄ってストップを絡めながら上昇。しかし101.916円と、102円目前で頭を押さえられた。
27日	主要国株価が堅調に推移する中で円売り優勢の展開。さらに、米新規失業保険申請件数が31.6万件(予想:33.0万件)、米10月耐久財受注が前月比-2.0%(予想通り)、23時45分発表の米11月シカゴ購買部協会景気指数が63.0(予想:60.0)、23時55分発表の米11月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値が75.1(予想:73.1)と、良好な結果が目立ったことからドル高が進み、102円台乗せを達成した。
29日	月末ゴトー(5・10)日の仲値公示に向けて円売り・ドル買いが強まると、ドル/円は5月23日以来の高値となる102.608円まで上昇した。

## USD / JPY

## 今月のポイント

11月のドル/円相場は97.611～102.608円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.1%もの大幅な上昇(ドル高・円安)となった。

月初の段階では98円台を中心とするもみ合いだったが、米10月雇用統計がかなり良好な結果だったことから、上昇開始。その後は特段のリスク要因が見当たらない中で、NYダウ平均が史上最高値を連日更新するなど主要国株価が軒並み堅調で、これを受けてジリジリと円安が進む、という展開になった。

ドル/円相場は株高に押し上げられる相場が続いていたが、12月はまず、月初の米11月雇用統計の内容を確認し、量的緩和(QE)の縮小開始時期についてのコンセンサス形成を試す流れになりそうだ。雇用統計の内容があまりに良好であれば、12月17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)でQE縮小スタートするのでは？との見方が拡がるほど、市場は前のめりになる可能性もある。そうなった場合、ドル/円は年初来高値103.733円の突破もあり得るだろう。

また、日本についても、法人税率引き下げに関する議論がどうなるかなども材料になってくる可能性がある。関連報道には要注意だ。

QE縮小時期に関する思惑は交錯すると考えられるが、引き続き株価が堅調であれば、大きく円を買うムードにはなりにくい。よほど株価が崩れない限り、10月下旬から続くドル/円の上昇基調は維持されそうだ。なお、FOMC後はクリスマスに向けて欧米勢が休暇入りするため、市場参加者が少なくなる。値動きが出にくくなる一方で、まとまった規模の注文が入れば急に値が飛ぶこともあり得る点は留意しておきたい。(石川)

(予想レンジ:99.500～104.000円)

## 今月の注目材料

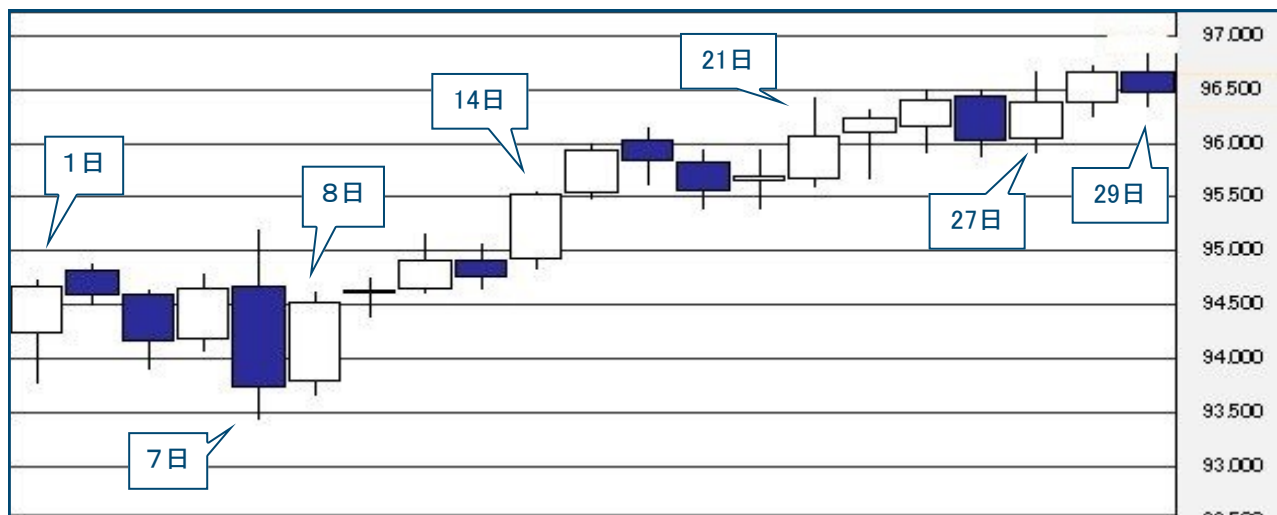
※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/2(月)	11月米ISM製造業景況指数	12/17(火)	11月米消費者物価指数
12/4(水)	11月米ADP全国雇用者数	12/18(水)	11月日本通関ベース貿易収支
	米地区連銀経済報告(ページブック)		11月米住宅着工件数
	11月米ISM非製造業景況指数		FOMC声明発表
12/5(木)	第3四半期米GDP・改定値	12/19(木)	12月米フィラデルフィア連銀景況指数
12/6(金)	11月米雇用統計	12/20(金)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
	12月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	12/24(火)	11月米耐久財受注
12/9(月)	10月日本経常収支・貿易収支		11月米新築住宅販売件数
12/11(水)	10月日本機械受注		12月米リッチモンド連銀製造業指数
12/12(木)	11月米小売売上高	12/26(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (11月20-21日分)
12/16(月)	日銀短観	12/31(金)	12月米シカゴ購買部協会景気指数
	11月米鋳工業生産		12月米消費者信頼感指数

## CAD/JPY

## カナダ/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	94.250円	96.834円	93.444円	96.478円



1日	しっかりで始まった日経平均株価がマイナス圏に沈み、120円超安まで下げ幅を拡大すると93.70円台まで軟化した。しかし、全般的にドルが強含む中、ドル/円の上昇につれた他、NYダウ平均が一時100ドルを超える上昇となった事から、94.70円台まで反発した。
7日	米第3四半期国内総生産(GDP)が予想を上回る伸びとなった事を受けてドル/円が上昇すると、カナダ/円もつれ高となり、95円台を回復。しかし、一時年初来高値を更新して上昇していたNYダウ平均が反落すると、急激に円を買い戻す動きが活発化して、93.40円台まで下落した。なお、反落の最中に加10月Ivey購買部協会景気指数が発表され、62.8と予想(52.0)を大幅に上回ったが、反応は限られた。
8日	加10月雇用統計は、失業率が6.9%、雇用ネット変化は1.32万人増と、いずれも予想(7.0%、1.10万人増)より良好な結果となり、カナダドル買いが活発化。これに加え、米10月雇用統計で非農業部門雇用者数の増加幅が予想を大きく上回り、ドル/円が上昇した事も追い風となり94.60円台まで上昇した。
14日	麻生財務相が「為替介入を手段として有していることは大事」などと為替介入の有用性に言及すると円売りが活発化。さらに、連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン副議長が、次期FRB議長の指名公聴会で金融緩和を当面継続する方針を示した事を受けてNYダウ平均が上昇すると、95.50円台まで上値を伸ばした。
21日	日経平均株価が約半年ぶりに15300円台を回復する堅調推移となった事から円売りが活発化すると96.40円台まで上昇。しかし、NY市場に入り、米新規失業保険申請件数の好結果などからドル高が進むと、ドル/円が101円台に上昇した一方で、米ドル/カナダドルが大幅に上昇。カナダ/円は米ドル/カナダドルでのカナダドル安の影響から、NY市場終盤に上げ幅を縮小した。
27日	「メルケル独首相率いる与党と最大野党の社会民主党が大連立で合意」との報道を好感して欧州株が上昇すると96.60円台まで値を上げた。原油価格が約7カ月ぶりの安値となる1バレル=91ドル台に下落したためやや伸び悩んだものの、ドル/円が102円台を回復して上昇した動きにつれて堅調に推移した。
29日	加第3四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+2.7%と予想(+2.5%)を上回る伸びとなった事を受けて96.834円の高値を示現した。しかし、GDP発表直後にドル安・カナダドル高に振れた反動から、米ドル/カナダドルが上昇に転じ、2011年10月以来の水準までカナダドル安が進むとカナダ/円も反落。史上最高値を更新したNYダウ平均がマイナス圏に沈んだ事も重石となり、96.352円まで弱含んだ。



## CAD/JPY

## 今月のポイント

11月のカナダ/円相場は93.444円～96.834円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.3%の上昇(カナダドル高・円安)となった。NYダウ平均や独DAX指数が史上最高値を更新したほか、日経平均は終値ベースで約6年ぶりの高値を記録するなど、世界的に株価が堅調に推移した事を受けて、約2カ月ぶりに96円台後半へ上昇した。リスク・オンの流れに乗った格好だが、5月に付けた年初来高値(101.032円)には遠く及ばず、年内の高値更新は難しい情勢となった。10月にカナダ中銀(BOC)が、利上げスタンスを撤回した事が尾を引いているとみられるほか、原油価格の下落もカナダドルの上値を押さえたと思われる。カナダドルと相関性が高いとされるNY原油価格(WTI)は、月初には96ドル台で推移していたが、29日には7カ月ぶりに91ドル台へ下落するなどリスク・オンの流れに逆らうように下落基調を強めた。こうした中、11月のカナダドルは、対円では上昇したが、米ドルやユーロなど他の主要通貨に対しては下落している。

12月については、まずは4日のBOC声明が注目されるが、金融政策スタンスに大きな変化は見込まれず、カナダドルの方向性を大きく左右する公算は小さい。カナダ/円相場を左右するのは、やはり主要国の株価や資源価格の動向だろう。株高基調が続けば、カナダ/円の支援材料となるが、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の株価の動向には注意が必要だ。FOMCが、金融緩和の維持を改めて表明すれば一段と株高が進む可能性がある一方、もし仮に予想外の量的緩和の縮小に踏み切れば、NYダウ平均などが急反落する事も考えられる。また、11月の原油価格の下落は、イラン問題の進展を受けて中東情勢への懸念が緩和した事が主因と見られるため、12月はリスク・オン＝原油高(リスク・オフ＝原油安)という通常パターンに戻る事も考えられる。(神田)

(予想レンジ: 94.500～99.000円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/2(月)	11月米ISM製造業景況指数	12/16(月)	日銀短観
12/4(水)	加中銀政策金利発表	12/18(水)	11月日本通関ベース貿易収支
	11月米ISM非製造業景況指数		米FOMC政策金利発表
12/6(金)	11月加雇用統計	12/20(金)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
	11月米雇用統計		11月加消費者物価指数
12/8(日)	11月中国貿易収支		10月加小売売上高
12/9(月)	10月日本貿易収支・経常収支	12/23(月)	10月加GDP
	7-9月期日本GDP・二次速報	12/27(金)	11月日本消費者物価指数
	11月中国鉱工業生産		
	11月加住宅着工件数		
12/12(木)	11月米小売売上高		